

DISCOVERY
DRUGS

グローバル 創薬関連株式ファンド

追加型投信／内外／株式

- 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込み



東洋証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
加入協会:日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

- 資料の作成、設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号
加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

人生100年 以上の世界へ

不治の病が無くなる
世界へ確かな歩み

人類が追い求めてきた 「夢」が実現する

病気の原因やそれに有効な薬が発見されなかった時代において、
人々は「病気を治すこと」ではなく、「より長く生きること」への望みを持っていました。



紀元前、中国最初の
皇帝である始皇帝は
「不老不死」を追い求め、
部下に靈薬を
探させていました。

ワクチンの開発、抗生物質の発見、DNA構造の解明…

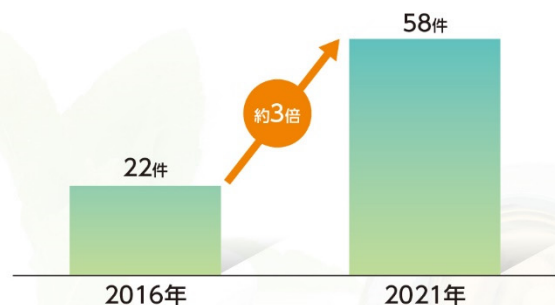
科学技術の発展に支えられ、
長い年月をかけて「病気を治し、健康に生きること」を目指してきましたが、

今後は革新的な**薬**の開発により、
人類が追い求めてきた夢の実現が
一層近づいてくると考えられます。

がんも手術なしで治る時代へ

がん治療薬の種類や数が増加していることから、手術以外の治療法の選択肢が拡大しています。

がん治療薬*1の承認件数



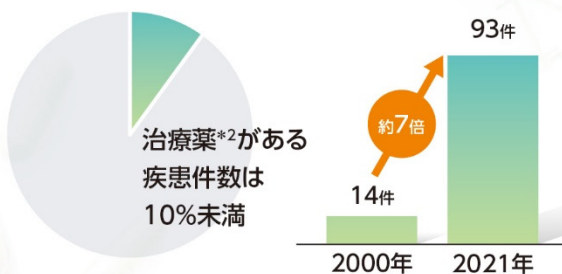
*1 米国食品医薬品局 (FDA) によって承認されたもの。既に承認を受けている適応症とは別の適応症で効果が認められ、改めて承認を得た治療薬も含まれます。
*2 FDAによって承認されたもの。

希少疾患の治療薬も年々増加

希少疾患は治療薬のないものが多く、創薬の余地が大きい領域で、市場拡大が期待されます。

知られている希少疾患は
約7,000種類

希少疾病用医薬品の
承認件数*2は増加



感染症への対応が短期間で可能に

新型コロナウイルスの事例

ワクチンの開発には一般的に年単位の期間がかかると言われていますが、**新型コロナウイルスのワクチンは1年足らずで実用化**され、ファイザー(米国)、モデルナ(米国)などのワクチンが世界各国・地域へ供給されています。

過去、最短で承認されたワクチンは?

ウイルスサンプルの収集から4年で承認された流行性耳下腺炎(ムンプス、おたふくかぜ)のワクチンです。

進化するデジタル技術を創薬に活用し、開発期間の短縮やコストダウンが加速



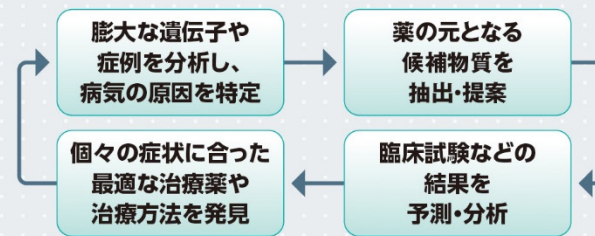
2003年 「ヒトゲノム計画」完了

ヒトの全ゲノム(DNAのすべての遺伝情報)の構造がほぼ解明され、遺伝子異常に由来する病気の原因を見つけられるようになりました。



人工知能(AI)や ビッグデータの活用

デジタル技術の進化を背景にAIやビッグデータの活用が進み、情報の解析・探索・検証などのスピードが飛躍的に上昇しています。



生命科学知識とデジタル技術を組み合わせることで、従来より短期間、かつ低コストで効果の高い画期的な創薬が期待されます。

(出所)FDA、米国がん協会、米国国立衛生研究所のデータ、各種情報を基に委託会社作成

※上記の画像はイメージであり、実際とは異なる場合があります。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

※上記は過去の実績および当資料作成時点の見通しであり、今後の市場環境等を保証するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものでもありません。



18世紀末

紀元前のエジプトのミイラにもその痕跡が見られた天然痘について、
人類史上初のワクチンである天然痘ワクチンの開発



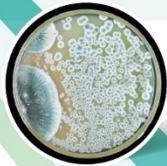
1918年-1919年

スペインインフルエンザ(スペイン風邪)の大流行
世界人口の約1/3が感染し、死者は2,000-4,000万人(世界保健機関(WHO)による推定)



1921年

糖尿病の治療薬となる「インスリン」の発見



1928年

細菌による感染症の治療薬となる「ペニシリン」の発見



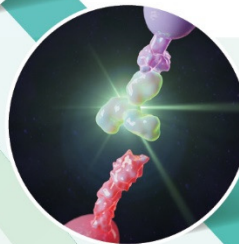
1980年

WHOが天然痘根絶宣言



1980年代-1990年代

エイズの治療薬「レトロビル」*1が1987年に米国で承認。開発ノウハウを生かして
インフルエンザの治療薬「タミフル」*1や「リレンザ」*1などの抗ウイルス薬が次々と登場



2014年

がんの治療薬「オプジーボ」*1の登場



2020年2月以降

新型コロナウイルスの大流行

感染症の世界的な
流行などにより、
ワクチンや治療薬の
開発が**加速**しました。

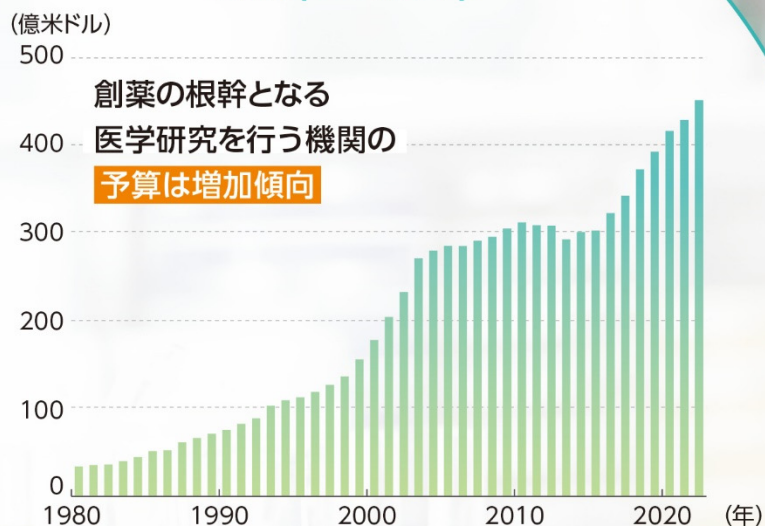
2020年12月

米国にて新型コロナウイルスワクチンの接種開始



各国・地域の**政府**による支援も、 **創薬市場の拡大**を後押し

米国国立衛生研究所(NIH)*2の予算 1980年～2022年



*2 米国の保健福祉省の傘下であり、がん、心肺血液およびアレルギー・感染症などの各種疾患に関する27の研究所などから構成される研究機関。

日本の創薬関連取組み



**2022年度 医療分野の研究開発関連
予算は2,052億円**

2013年度と同予算1,725億円から9年で
約19%の327億円増

**2021年度 厚生労働省が
「医薬品産業ビジョン2021」を公表**

2015年の「医薬品産業強化総合戦略」
公表以降、創薬競争環境や供給環境の変化
などを受け、研究開発や流通、国際展開
などの分野において具体的な施策を策定

新型コロナウイルスのワクチン開発に関連し、 各国政府が製薬会社に支援を行った事例

| | |
|--|---|
|  米国 | 米国保健福祉省の生物医学先端研究開発局(BARDA)は、 民間製薬会社7社に約291億米ドルを拠出(2022年5月末時点) ●ファイザー:約121億米ドル ●モデルナ:約96億米ドル ●ジョンソン・エンド・ジョンソン:約20億米ドル など ※ファイザーとモデルナのワクチンはFDAによる正式承認、ジョンソン・ エンド・ジョンソンのワクチンは緊急使用許可を取得 |
|  ドイツ | ドイツ連邦教育研究省はワクチン開発を支援するために 総額で最大7億5,000万ユーロを拠出(2020年9月15日発表) ●ビオンテック:最大3億7,500万ユーロ ●キュアバック:最大2億5,200万ユーロ など |

(出所) NIH, BARDAのデータ、各種情報を基に委託会社作成

※写真はイメージです。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

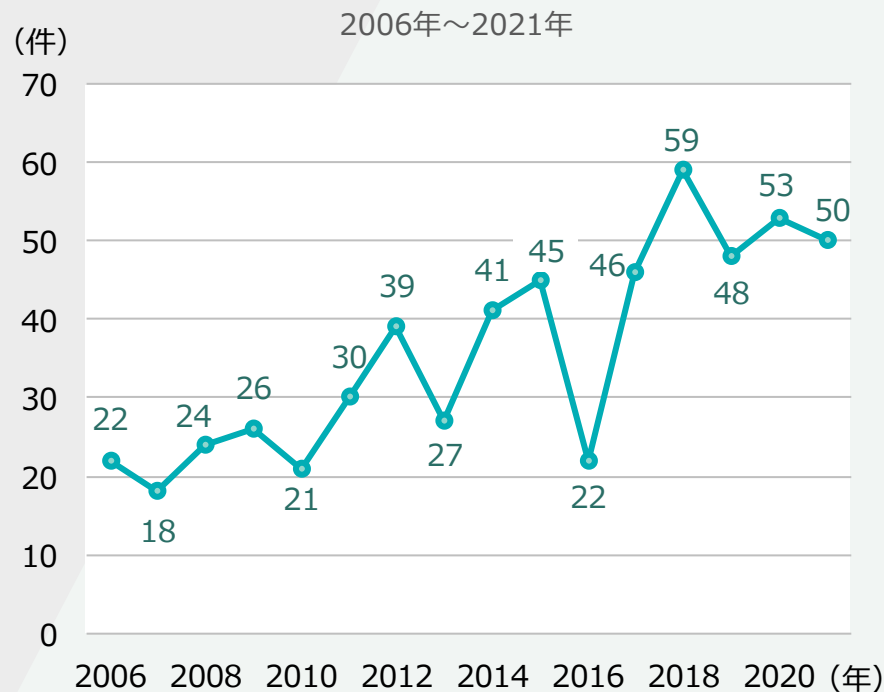
※上記は過去の実績および当資料作成時点の見通しであり、今後の市場環境等を保証するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものでもありません。

様々なニーズに応え、新薬は増加傾向

- 創薬にAIやビッグデータなど、進化するデジタル技術を活用することで、開発期間の短縮やコストダウンが加速しています。創薬スピードが加速していることに伴い、新しい成分から作られた医薬品の承認件数も増加しています。
- 患者数が少なく、投資費用の回収や有効性・安全性の検証といった面で開発が難しい希少疾病用医薬品についても、新規開発のほか既存医薬品の希少疾病用医薬品としての申請を受け、承認件数が増加傾向にあります。

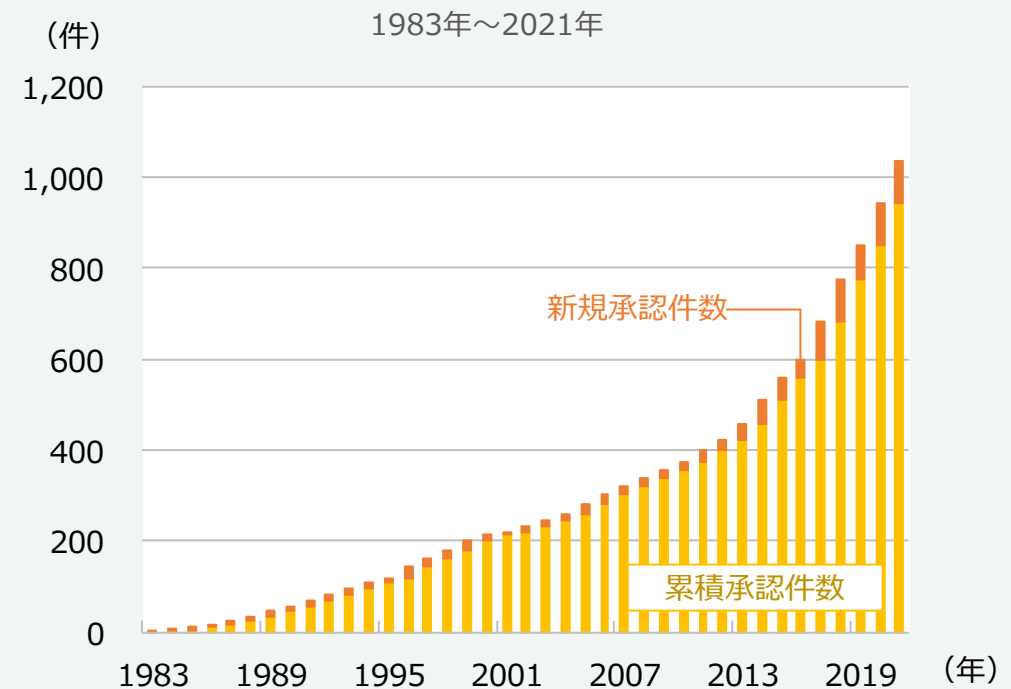
創薬スピードの加速に伴い、新薬の承認件数も増加

FDAによる新規化合物の医薬品の承認件数



希少疾病用医薬品の承認件数が年々増加傾向

FDAによる希少疾病用医薬品の承認件数



(出所) FDAのデータを基に委託会社作成

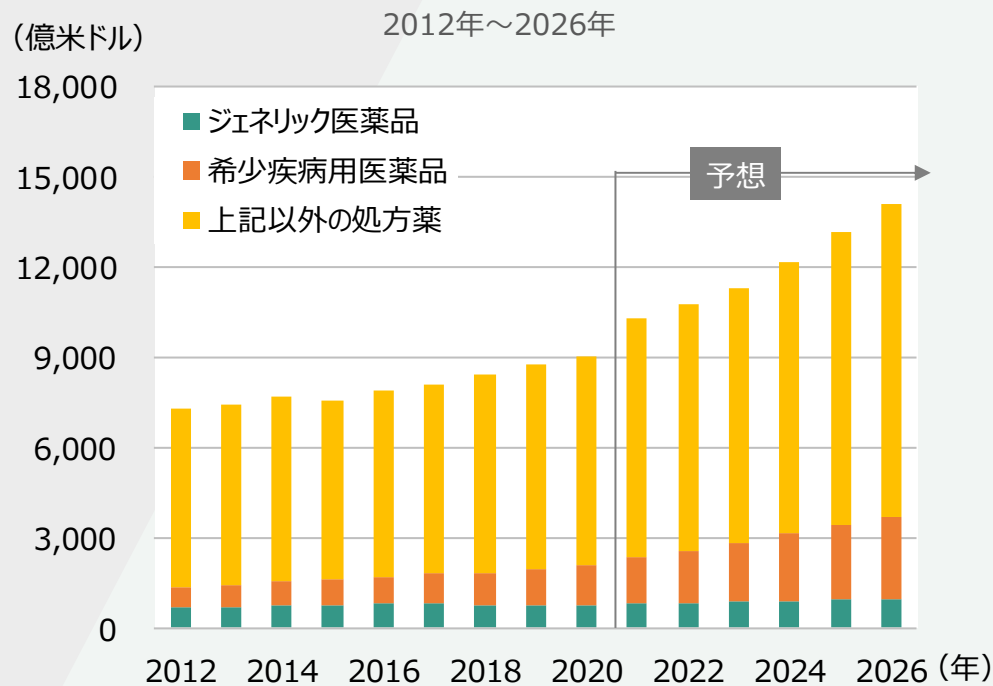
※上記は過去の実績であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものでもありません。

拡大が見込まれる医薬品市場

- 様々な種類の医薬品が開発・承認されたことなどを背景に、世界における処方薬の売上高は2012年の約7,300億米ドルから2026年に約1兆4,000億米ドルへ拡大することが見込まれます。
- 世界における製薬会社の研究開発（R&D）投資が加速しており、より多くの創薬が期待されます。

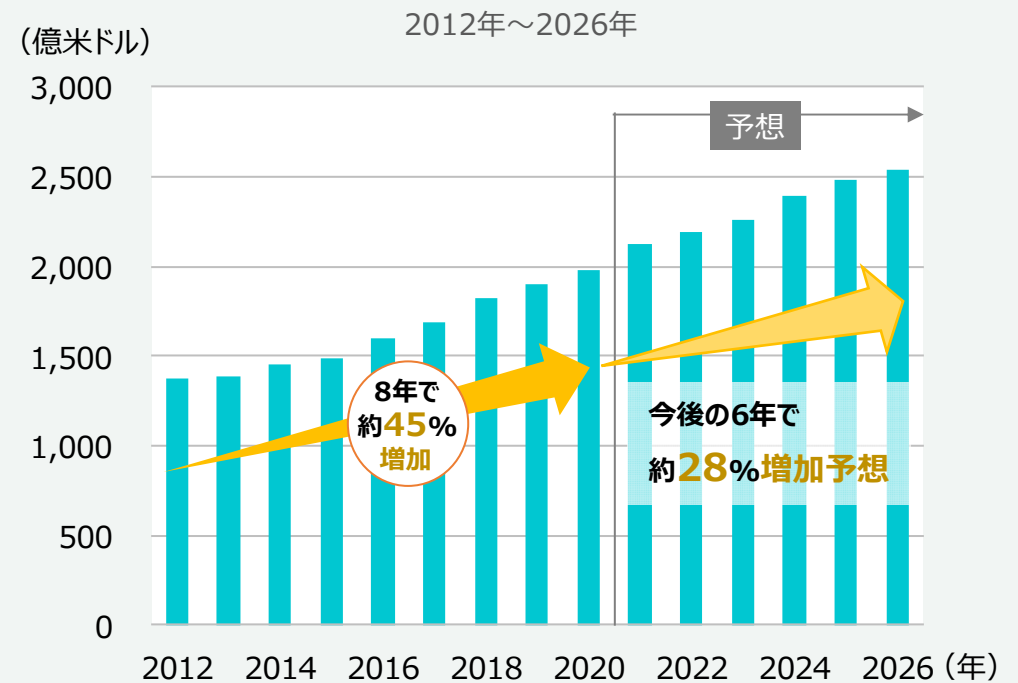
様々な種類の医薬品の売上高が増加傾向

世界における処方薬の売上高の推移



製薬会社による研究開発投資が世界で加速

世界における研究開発投資総額の推移



(注1) 左グラフの2021年以降は主要な証券アナリストによる企業別製品売上およびセグメント別売上のコンセンサス予測に基づく。

(注2) 右グラフの2021年以降はEvaluate Pharma®による予想値。ただし、2020年までにおいて会社公表の実績値がない場合はEvaluate Pharma®による推定値を使用。

(出所) Evaluate Pharma® World Preview 2021, Outlook to 2026 © Evaluate Ltd.のデータを基に委託会社作成

※上記は過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

高い買収プレミアムで買われる革新的な創薬関連企業

- 近年、医薬品業界においては高いプレミアムを支払ってでも革新的な創薬関連企業を買収する動きが活発化しています。
- 買収企業は有効な治療薬や有力な新薬候補を取り込むことで、業績の拡大や企業価値の成長が期待されます。

| 発表時期 | 被買収企業（本社所在地） | 買収企業（本社所在地） | 買収金額 | 買収プレミアム | 買収時における被買収企業の注目点 |
|----------|--------------------------------|--------------------------|---------|---------|---|
| 2019年1月 | ロクソ・オンコロジー（米国） | イーライリリー（米国） | 80億米ドル | +68% | 特定の遺伝子変異によって生じる固形がんや肺がんに有効な治療薬を保有・開発中 |
| 2019年10月 | ラ・ファーマシューティカルズ（米国） | UCB（ベルギー） | 23億米ドル | +110% | 免疫機能の異常によって全身の筋力低下などの症状が起こる重症筋無力症の治療薬などを開発中 |
| 2019年11月 | メディシズ・カンパニー（米国） | ノバルティス（スイス） | 97億米ドル | +41% | 血液中に悪玉コレステロールが異常に増える高コレステロール血症などに有効なコレステロール降下剤を開発中 |
| 2020年1月 | デルミラ（米国） | イーライリリー（米国） | 11億米ドル | +86% | 明確な原因がない腋窩（えきか）多汗症の治療薬を保有し、アトピー性皮膚炎の治療薬を開発中 |
| 2020年8月 | モメンタ・ファーマシューティカルズ（米国） | ジョンソン・エンド・ジョンソン（米国） | 65億米ドル | +70% | 免疫機能の異常によって全身の筋力低下などの症状が起こる重症筋無力症や神経炎症に有効な治療薬を開発中 |
| 2020年9月 | イミノメディクス（米国） | ギリアド・サイエンシズ（米国） | 210億米ドル | +108% | 一部の乳がんにも有効で、迅速承認制度下でFDAの承認を取得している治療薬を保有 |
| 2020年12月 | アレクシオン・ファーマシューティカルズ（米国） | アストラゼネカ（英国） | 390億米ドル | +45% | 赤血球が血管内で異常に早く破壊されて起こる貧血である発作性夜間ヘモグロビン尿症に有効な治療薬などを保有 |
| 2021年2月 | GWファーマシューティカルズ（英国） | ジャズ・ファーマシューティカルズ（アイルランド） | 72億米ドル | +50% | 一部の難治性てんかんにも有効で、FDAによる初承認となった大麻草由来の成分を用いた治療薬を保有 |
| 2021年12月 | アリーナ・ファーマシューティカルズ（米国） | ファイザー（米国） | 67億米ドル | +100% | 潰瘍性大腸炎やクローン病といった原因不明の炎症性腸疾患向け治療薬を開発中 |
| 2022年5月 | バイオヘブン・ファーマシューティカル・ホールディング（米国） | ファイザー（米国） | 116億米ドル | +79% | カルシトニン遺伝子関連ペプチド（CGRP）受容体拮抗薬を含む複数の片頭痛の治療薬を保有 |

（注）買収プレミアムは買収発表前日株価比。ただし、ノバルティス（スイス）によるメディシズ・カンパニー（米国）買収の件は、過去30日間の加重平均取引価格比、イーライリリー（米国）によるデルミラ（米国）買収の件は、過去60日間の加重平均取引価格比。

（出所）カンドリアム・エス・シー・イーのデータ、各種情報を基に委託会社作成

※上記は例示を目的とするものであり、個別銘柄を推奨するものではありません。

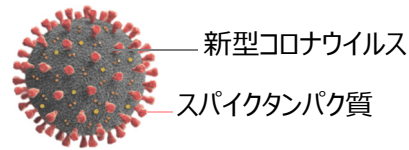
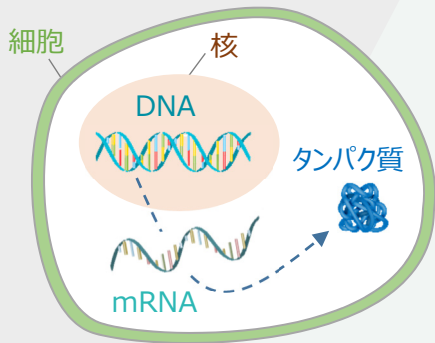
※上記は過去の実績であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

新型コロナウイルスワクチンで注目を集めたmRNA

- 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を背景にメッセンジャーRNA（mRNA）ワクチンが承認され、世界各国・地域で普及しています。
- 今後、mRNAは感染症のほかに、がんや様々な希少疾患向け医薬品の開発に貢献すると期待されます。

mRNAの役割とmRNAを用いた免疫の仕組み

タンパク質を作る設計図となるDNAの遺伝情報はmRNAによってコピーされます。このmRNAの情報を基に細胞内で様々なタンパク質が合成されます。



ファイザー（米国）やモデルナ（米国）のmRNAワクチンは、新型コロナウイルスの表面にあるスパイクタンパク質を作る設計図となるmRNAを体内に注射します。細胞内でスパイクタンパク質を作り、それに対する抗体*が作られることで免疫ができます。

* 体内に入ったウイルスや細菌、がん細胞などを排除するために作られるタンパク質。

※上記はイメージです。

日本で接種可能なワクチンの種類（2021年8月現在）

| ワクチンの種類 | 対象 | ワクチンの特徴 |
|----------|-----------------|--|
| 生ワクチン | BCG（結核）、水痘、麻疹など | 病気の原因となる細菌やウイルスの毒性を弱めて作ったワクチンです。 |
| 不活化ワクチン | B型肝炎、インフルエンザなど | 感染力をなくした細菌やウイルス、またはそれらを構成するタンパク質から作ったワクチンです。 |
| mRNAワクチン | 新型コロナウイルス | ウイルスを構成するタンパク質の遺伝情報を持つmRNAを利用して作ったワクチンです。 |

（出所）モデルナのホームページ、Bloombergのデータ、各種情報を基に委託会社作成

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

※上記は投資対象銘柄の例示を目的とするものであり、当ファンドにおいて上記の銘柄に投資するとは限りません。また、個別銘柄を推奨するものではありません。

※上記は過去の実績および当資料作成時点の見通しであり、当ファンドの将来の運用成果および当該銘柄の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

コロナ禍でビジネスの転機を迎えたmRNA医薬品の先駆者

モデルナ（米国）

- mRNA医薬品やワクチンの先駆者であり、ジカウイルスのワクチンや心疾患の治療薬などの新薬候補を保有しています。
- FDAの緊急使用許可を得た新型コロナウイルスのmRNAワクチンは世界各国・地域に供給されています。

株価と売上高の推移



治療の選択肢が広がる「がん」

- がん治療には、主に手術療法、放射線療法、薬物療法が用いられます。中でも、薬物療法においては、最も一般的である抗がん剤と呼ばれる細胞障害性抗がん薬を用いる化学療法以外に、分子標的療法の進捗が著しく、がんを治療できる様々な選択肢が増加しています。

がん治療で注目される薬物療法

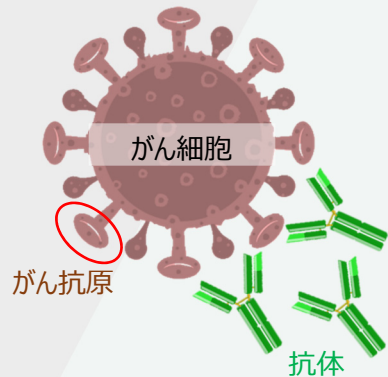
分子標的療法

がん細胞の増殖に関わる特定のタンパク質を直接攻撃、またはがんを攻撃する免疫細胞にあるタンパク質に働きかける分子標的薬を用いる療法です。

代表的な分子標的薬：抗体医薬品

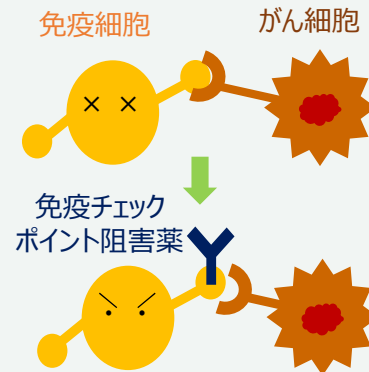
細胞表面にある抗原に対する抗体薬

がん細胞の表面にある特定のタンパク質（がん抗原）に結合する抗体を用いた治療薬です。



免疫チェックポイント阻害薬

免疫細胞ががん細胞を攻撃できるように、がん細胞と免疫細胞を結合させない薬です。



※上記はイメージです。

(出所) ジェンマブのホームページ、Bloombergのデータ、各種情報を基に委託会社作成

※上記は投資対象銘柄の例示を目的とするものであり、当ファンドにおいて上記の銘柄に投資するとは限りません。また、個別銘柄を推奨するものではありません。

※上記は過去の実績であり、当ファンドの将来の運用成果および当該銘柄の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

がん治療などに変革をもたらす抗体医薬品の専門企業

ジェンマブ（デンマーク）

- 抗体医薬品の開発に特化し、特にがん治療の分野に注力しています。
- 抗体医薬品である、多発性骨髄腫*1や再発寛解型多発性硬化症*2の治療薬などを保有しています。

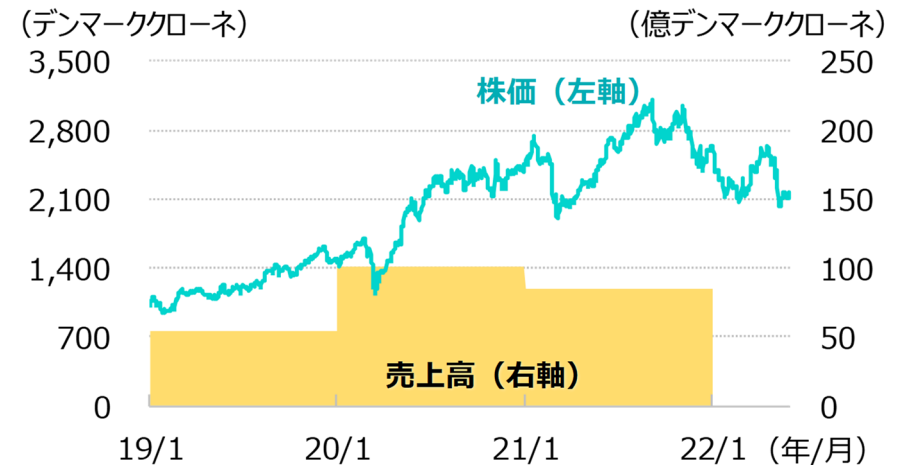
*1 血液細胞の一種で、抗体を作る形質細胞のがん。

*2 複数個所で神経の一部が破壊される症状が出る「再発」と症状が治まる「寛解」を繰り返す疾患。

株価と売上高の推移

株価：2019年1月1日～2022年5月31日、日次

売上高：2019年～2021年、年次



開発の強化が進む「希少疾患」の治療薬

- 各国・地域の政府は希少疾病用医薬品に関連し、審査面や税制面などで優遇措置を設けることで企業の積極的な開発を促しています。
- 希少疾患は治療薬の開発余地が大きい領域であり、世界的に創薬関連企業の競争が激化し、今後さらなる市場の拡大が期待されます。

各国・地域における希少疾病用医薬品の指定条件

| | |
|-----------|------------------------|
| 米国 | 米国における対象患者数が20万人未満 |
| EU (欧州連合) | EUにおける対象患者数が1万人あたり5人以下 |
| 日本 | 日本における対象患者数が5万人未満 |

希少疾患の例：重症筋無力症

神経の末端と筋肉の接合部分（神経筋接合部）において、筋肉側にある神経伝達物質の受け皿が免疫異常により作られた抗体によってブロックされることが主な原因で発症し、脳からの指令が伝わりにくくなるため、全身の筋力低下などを招きます。



UCB (ベルギー) は、2019年10月に重症筋無力症の治療薬などを開発しているラ・ファーマシューティカルズ (米国) を買収しました。

(出所) UCBのホームページ、Bloombergのデータ、各種情報を基に委託会社作成

※上記は投資対象銘柄の例示を目的とするものであり、当ファンドにおいて上記の銘柄に投資するとは限りません。また、個別銘柄を推奨するものではありません。

※上記は過去の実績および当資料作成時点の見通しであり、当ファンドの将来の運用成果および当該銘柄の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

神経や免疫・炎症領域の重篤な疾患に特化した医薬品メーカー

UCB (ベルギー)

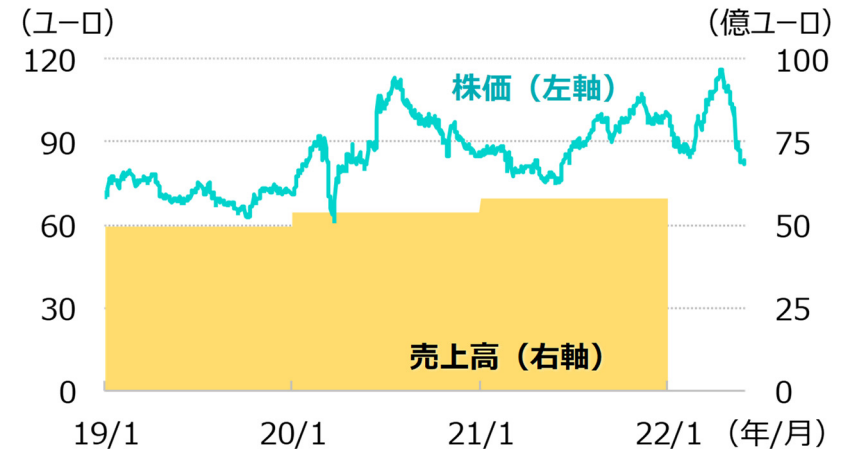
- 神経や免疫などの疾患にフォーカスした医薬品の開発を手掛けています。
- 抗体医薬品である関節リウマチおよび乾癬*1治療薬、てんかん*2の治療薬を保有しています。

*1 免疫の異常により皮膚細胞が過剰に増殖し、紅斑などを伴う慢性的皮膚疾患。

*2 感覚の喪失や意識障害などの発作が起こる慢性的な神経障害。

株価と売上高の推移

株価：2019年1月1日～2022年5月31日、日次
売上高：2019年～2021年、年次



ファンドの特色

1 主として、革新的な技術力で医療分野に新たな可能性を生み出していく世界の創薬関連企業の株式に投資を行います。

- ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。

創薬関連企業とは？

当ファンドでは、医薬品の開発を行う創薬企業をはじめとして、遺伝子検査や実験機器などのバイオテクノロジーにかかわる企業を指します。創業期など初期のステージにある企業から安定的な成長を確立した企業の株式まで幅広く投資を行います。

2 実質的な運用は、カンドリアム・エス・シー・エー*が行います。

* 従来、実質的な運用を行っていたカンドリアム・ベルギー・エス・エーは、グループ内の再編により、2022年7月1日付でカンドリアム・エス・シー・エー（所在地：ルクセンブルグ）のベルギー支店となりました。当該再編に伴い、運用方針および運用体制等の変更はありません。

3 実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

- 基準価額は為替変動の影響を受けます。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資対象とする外国投資信託の運用会社のご紹介

- 当ファンドの実質的な運用は、世界最大級の生命保険会社ニューヨークライフ傘下の資産運用会社であるニューヨークライフ・インベストメンツの子会社、カンドリアム・エス・シー・エーが行います。
- カンドリアム・エス・シー・エーは、ブリュッセル、パリ、ルクセンブルグ、ロンドンに運用拠点を展開する欧州有数の運用会社です。

CANDRIAM
A NEW YORK LIFE INVESTMENTS COMPANY

設立日

1996年7月15日

運用資産残高

約1,538億ユーロ（約21兆円）

従業員数

615名



本社オフィスビル：ルクセンブルグ

運用チームについて

- グローバル・テーマ株式運用チームは20年以上にわたって、ヘルスケア、バイオテクノロジー、ロボティクスなどの運用を手掛けています。
- 当戦略は、グローバル・テーマ株式運用ヘッドのルディ・バンデン・アインデが2000年の運用開始以来、運用を担当しています。
- また、バイオテクノロジー分野の博士号を有する3名のバイオテクノロジー・アナリストを含む5名のチームにより運用を行います。

企業との対話のみならず、創薬関連企業の評価に多くの情報源を活用

- ✓ 根幹をなす医学的および科学的データは学会や公表情報を利用
- ✓ 複数のデータベースを利用し、迅速かつ完全な開発情報を入手
- ✓ 幅広いネットワークを有する「ガーソン・レーマン・グループ」を通じて、医学および科学の専門家が提供し、投資判断を補完・検証できる情報を獲得

ガーソン・レーマン・グループ（GLG）は？

- 90万人以上の専門家のグローバルネットワークへの迅速なアクセスを提供する米国リサーチ企業です。
- 大手製薬上位10社のうち8社、バイオテクノロジー企業上位10社のうち9社など、100社を超える大手ライフサイエンス企業を顧客に抱えています。

当ファンドが投資対象とする外国投資信託が採用する
バイオテクノロジー株式戦略（以下、当戦略）の代表ファンドは
外部評価機関*より、9年連続で最優秀ファンドを受賞

- 2014年～2022年 ドイツ
株式部門 バイオテクノロジー 運用期間10年以上 最優秀ファンド



* リッパー・ファンド・アワード

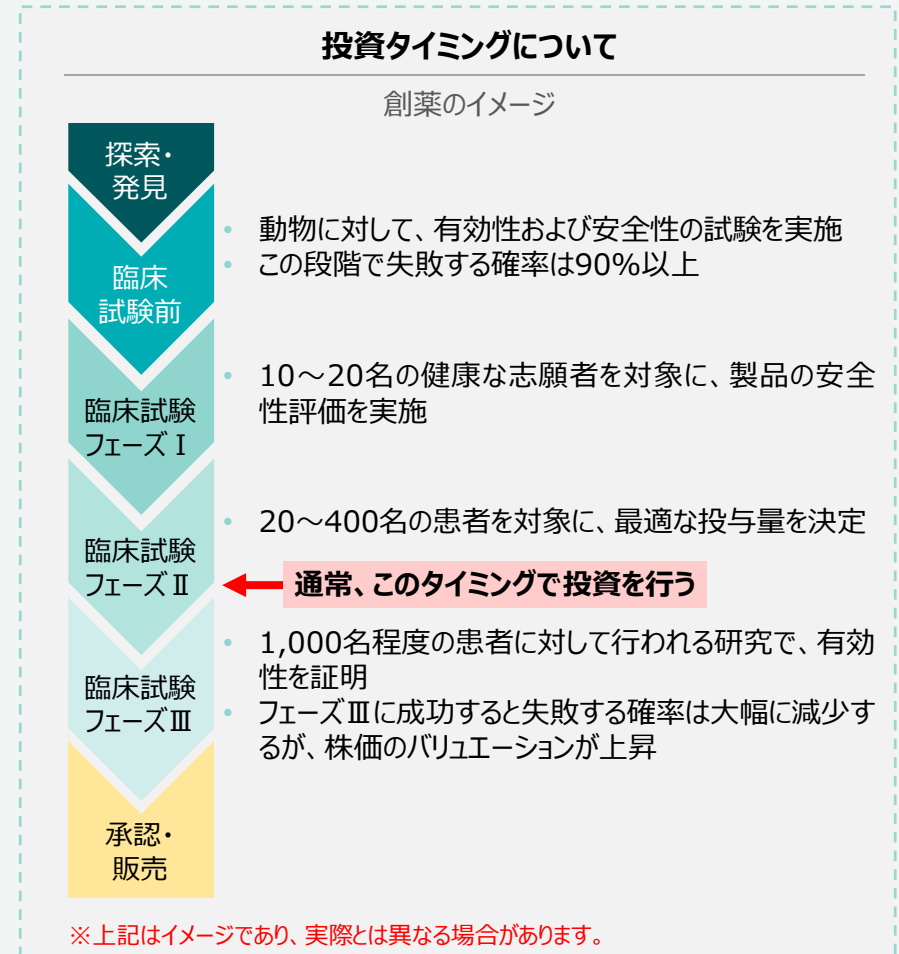
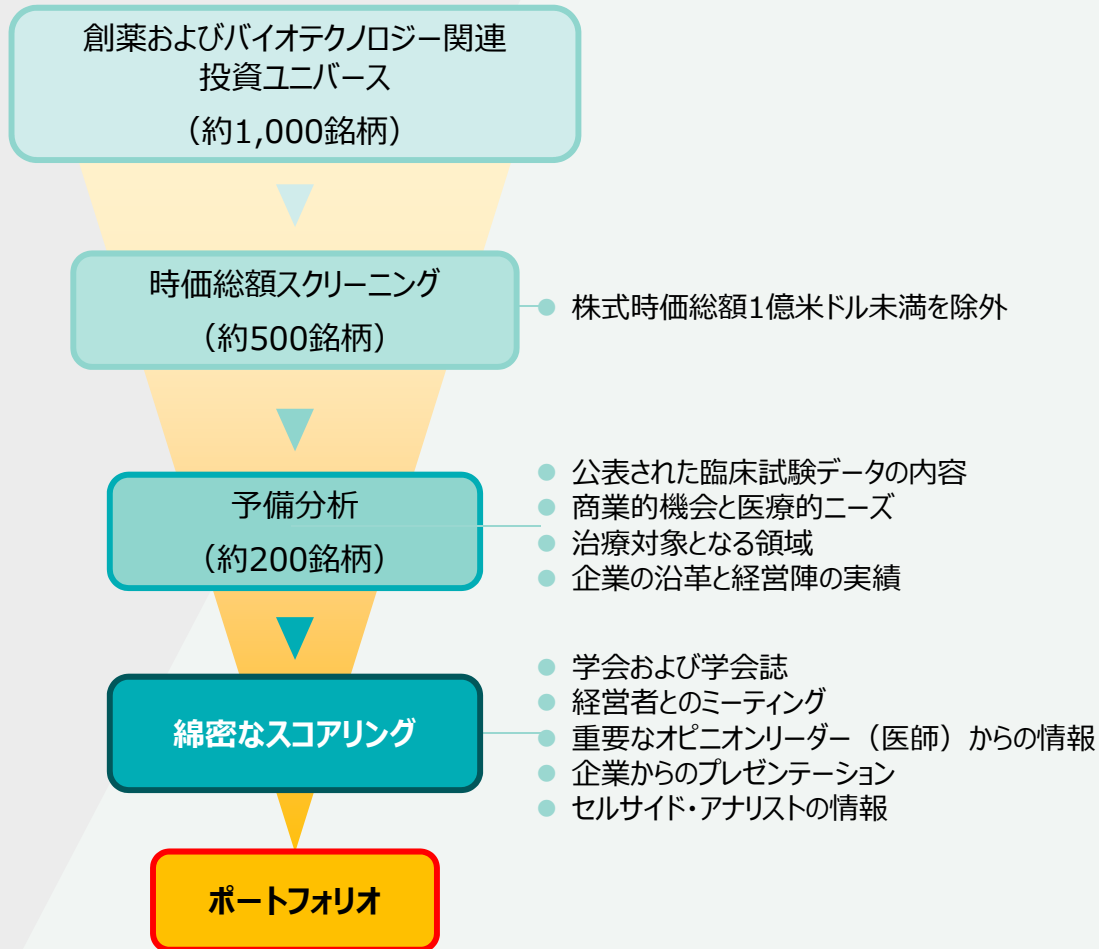
（注）2022年3月末現在。運用資産残高は同時点の為替レート（1ユーロ＝134.67円）で円換算。ただし、GLGの情報は2021年8月末現在。

（出所）カンドリアム・エス・シー・エーのデータ、GLGのホームページを基に委託会社作成

※上記の受賞歴は当戦略の代表ファンドにかかるものであり、当ファンドが投資対象とする外国投資信託が受賞したものではありません。当該運用評価は過去の一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

投資対象とする外国投資信託の運用プロセス

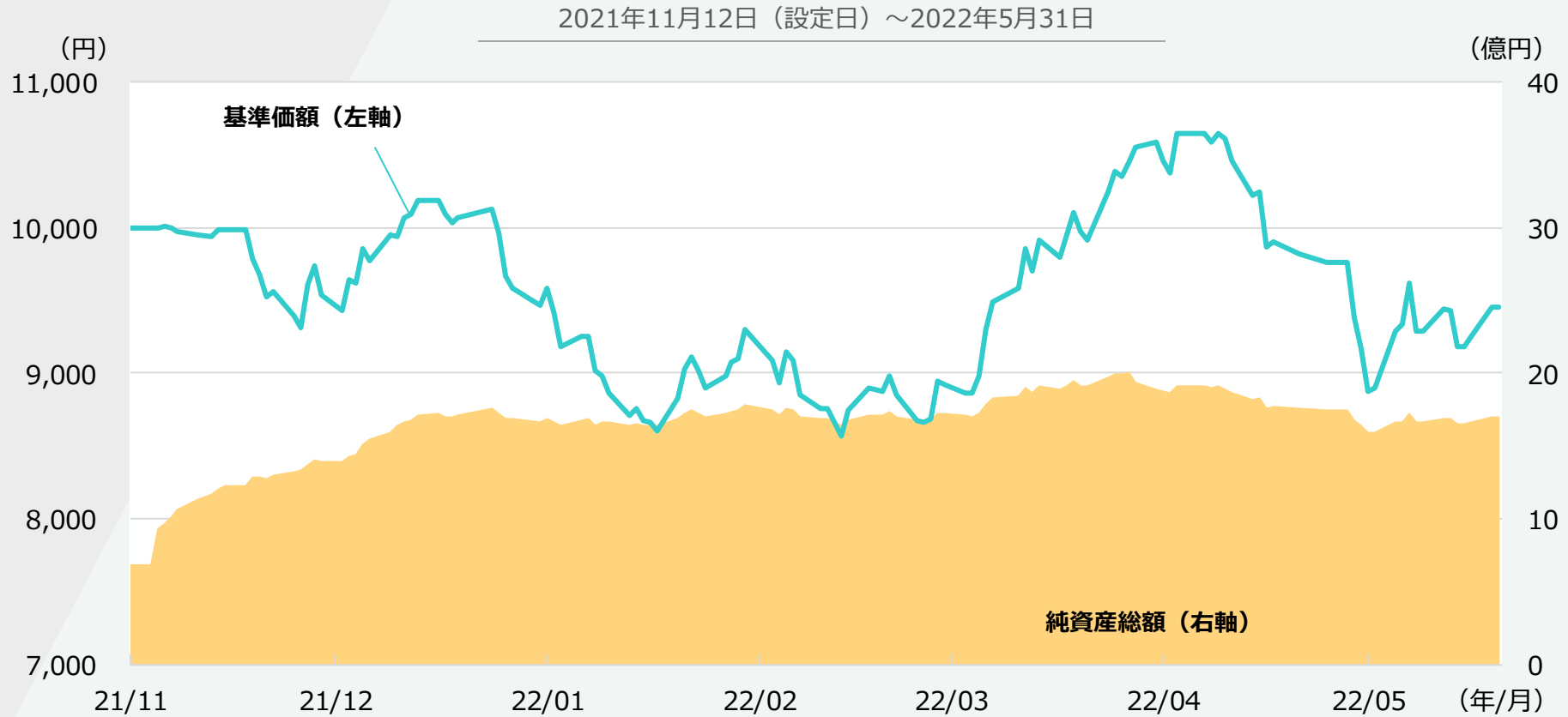
- ボトムアップ・アプローチによる徹底した企業分析と臨床試験データの深い理解に基づき、安定的な成長が期待できる大型株から大きな潜在力を持つアーリーステージ企業まで銘柄を厳選し、グローバルで分散されたポートフォリオ構築を行います。
- また、企業や事業の成長余地を捉え、過剰なリスクを避けるために、適切なタイミングを見極め投資を行い、中長期的な投資成果を目指します。



(出所) カンドリアム・エス・シー・エーの資料を基に委託会社作成

※上記の運用プロセスは2022年5月末現在のものであり、今後変更される場合があります。

基準価額および純資産総額の推移



(注1) 基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。

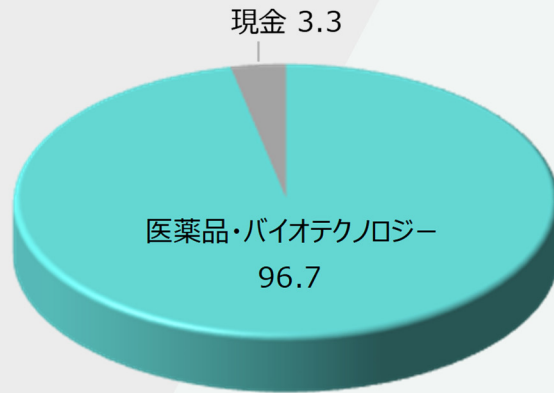
(注2) 当ファンドは2022年5月31日現在で分配を行っておりません。

※上記は過去の実績であり、当ファンドの将来の運用成果や今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。

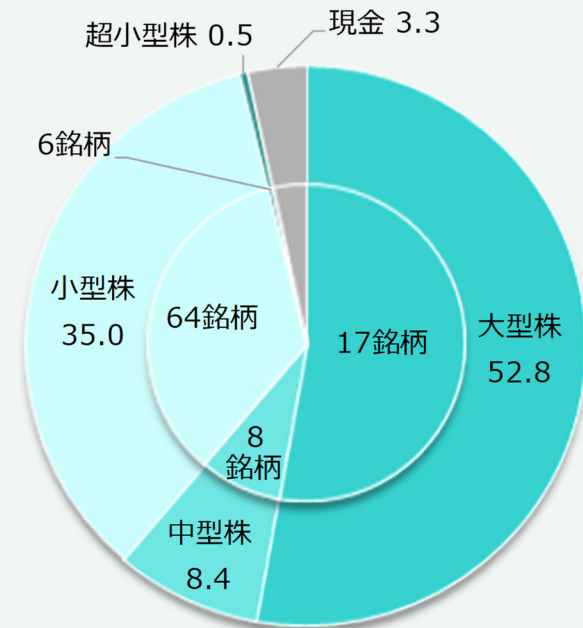
※ファンド購入時には購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは22ページおよび投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

組入投資信託のポートフォリオの概要①（2022年5月末現在）

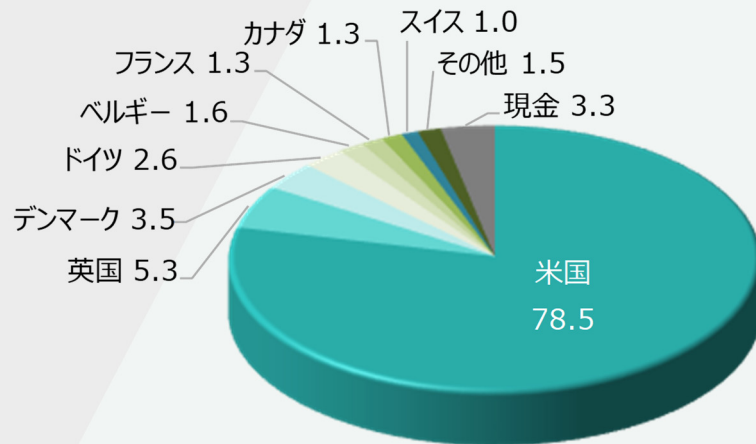
業種別構成比率 (%)



規模別構成比率 (%)



国・地域別構成比率 (%)



時価総額に基づく定義

| | |
|------|---------------------|
| 大型株 | 200億米ドル以上 |
| 中型株 | 100億米ドル以上、200億米ドル未満 |
| 小型株 | 3億米ドル以上、100億米ドル未満 |
| 超小型株 | 3億米ドル未満 |

(注1) 国・地域別構成比率は経営リスクをベースにした分類、業種別構成比率は世界産業分類基準（GICS）による分類です。

(注2) 構成比率は組入投資信託の純資産を100%として計算しています。

(注3) 四捨五入の関係上、構成比率の合計が100%にならない場合があります。

(出所) カンドリアム・イス・シー・イー、Bloombergのデータを基に委託会社作成

※上記は当ファンドの組入投資信託である「カンドリアム・エクイティーズ・L・バイオテクノロジー（Sクラス、円建て）」のポートフォリオの概要であり、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

※上記は過去の実績であり、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

組入投資信託のポートフォリオの概要②（2022年5月末現在）

組入上位10銘柄

（組入銘柄数：95）

| 組入順位 | 銘柄名 | 国・地域 | 企業概要 | 組入比率 (%) |
|------|---------------------|------|---|----------|
| 1 | ギリアド・サイエンシズ | 米国 | ヒト免疫不全ウイルス（HIV）やエイズ、肝臓疾患などを主な事業分野とするバイオ医薬品メーカー。 | 7.6 |
| 2 | リジエロン・ファーマシューティカルズ | 米国 | がん、眼疾患や慢性炎症などを対象とする治療薬および新薬候補を保有するバイオ医薬品メーカー。 | 6.6 |
| 3 | バーテックス・ファーマシューティカルズ | 米国 | 嚢胞性（のうほうせい）線維症、がん、炎症性腸疾患、自己免疫疾患および神経疾患の治療薬を開発し、世界各地で事業を展開する医薬品メーカー。 | 6.1 |
| 4 | アムジェン | 米国 | 細胞生物学および分子生物学に基づいた創薬に注力する独立系バイオ医薬品メーカー。 | 5.4 |
| 5 | シージェン | 米国 | 韓国を拠点とし、呼吸器や感染症の病原体などの分子診断試薬の開発・製造・販売を行うバイオテクノロジー会社。 | 3.6 |
| 6 | ホライゾン・セラピューティクス | 米国 | 疼痛、炎症、特殊疾患および希少疾患を治療するバイオ医薬品を開発・商品化するバイオ製薬会社。 | 3.3 |
| 7 | アストラゼネカ | 英国 | 子会社を通じて、医薬・医療製品の研究・製造・販売を手掛け、消化器系、腫瘍、呼吸器系、感染症などの分野において事業を展開する持株会社。 | 3.2 |
| 8 | バイオジェン | 米国 | 神経学、腫瘍学、免疫学に基づいた創薬・医薬品の販売を行い、多発性硬化症や関節リウマチ、乾癬などの疾患向け製品を手掛ける医薬品メーカー。 | 3.0 |
| 9 | アルナイラム・ファーマシューティカルズ | 米国 | リボ核酸干渉（RNAi）に基づいた創薬を手掛け、米国および英国のヘルスケアセクター向けに事業を展開する医薬品メーカー。 | 2.6 |
| 10 | イルミナ | 米国 | 遺伝子の変異や生体機能を大規模なスケールで分析する統合システムの開発・製造・販売を手掛ける解析ツール開発会社。 | 2.5 |

（注1）国・地域は経営リスクをベースにした分類です。

（注2）組入比率は組入投資信託の純資産を100%として計算しています。

（出所）カンドリアム・イス・シー・イー、Bloombergのデータを基に委託会社作成

※上記は当ファンドが投資対象とする外国投資信託「カンドリアム・エクイティーズ・L・バイオテクノロジー（スクラス、円建て）」の組入銘柄であり、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

※上記は過去の実績であり、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

組入投資信託の組入銘柄のご紹介（2022年5月末現在）

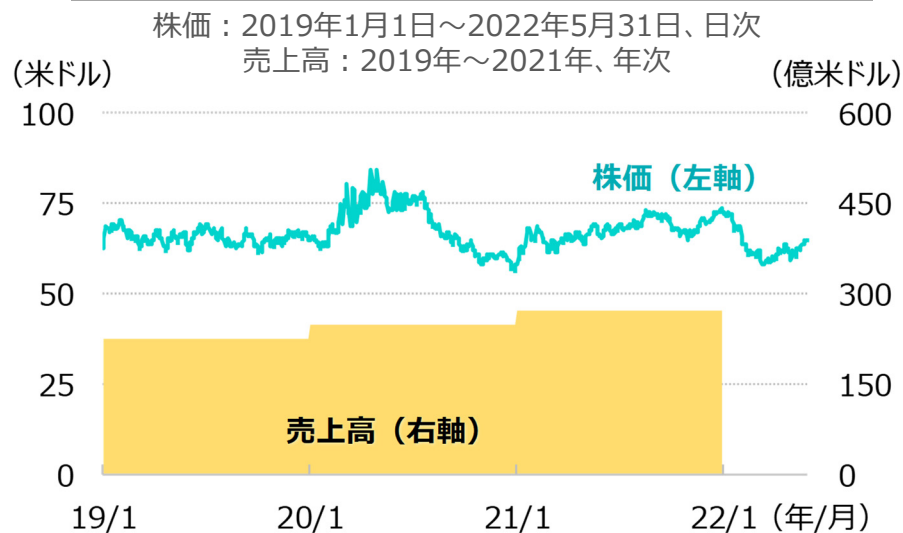
ギリアド・サイエンシズ（米国）



※写真はイメージです。

- 2021年売上高の約6割を占めるHIV関連商品をはじめ、B型・C型肝炎の治療薬や50本以上の新薬候補などを保有しています。
- 新型コロナウイルスの治療薬としてFDAによる正式承認を得た抗ウイルス薬「レムデシビル」は、日本国内において初の新型コロナウイルスの治療薬としても承認されました。

株価と売上高の推移



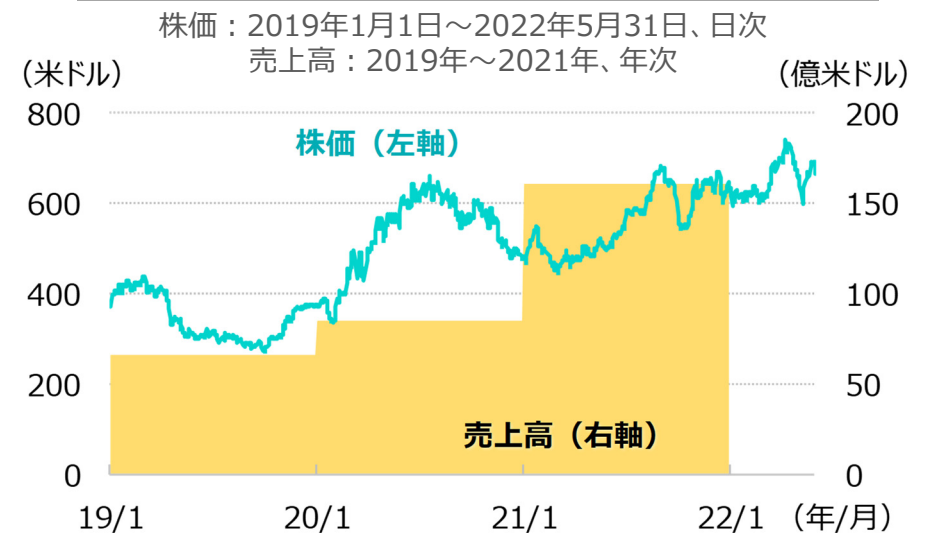
リジェネロン・ファーマシューティカルズ（米国）



※写真はイメージです。

- 2021年売上高の約4割を占める加齢黄斑変性*の治療薬をはじめ、心血管疾患の治療薬や30本以上の新薬候補などを保有しています。
- FDAの緊急使用許可を得た新型コロナウイルス感染症の治療および予防を目的とした「抗体カクテル療法」について2021年7月に中外製薬が日本での製造・販売の承認を得ています。

株価と売上高の推移



* 加齢とともに網膜の中心部分である黄斑に異常が起きることで、視力障害を引き起こす疾患。

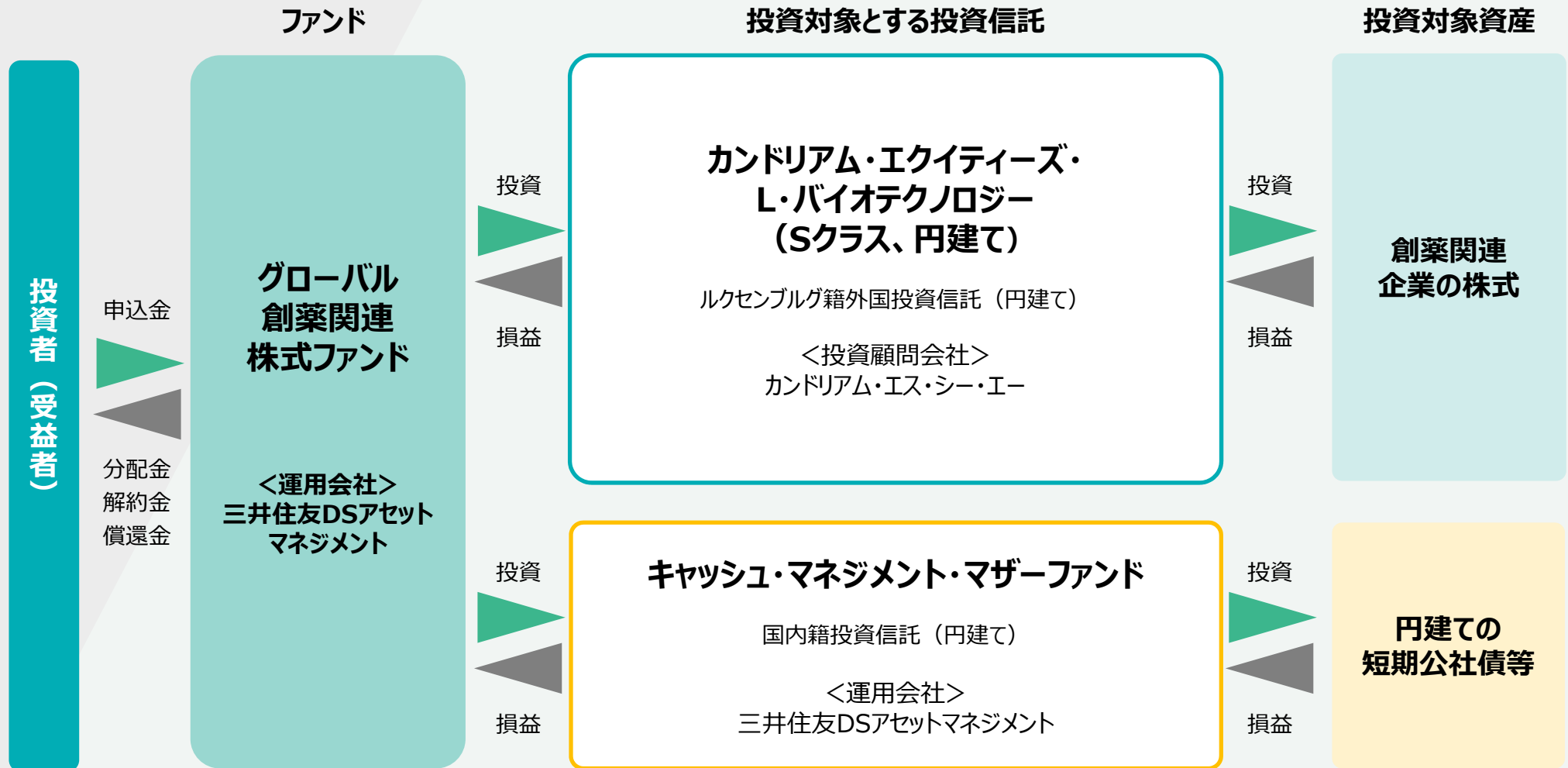
(出所) 各社ホームページ、Bloombergのデータを基に委託会社作成

※上記は当ファンドが投資対象とする外国投資信託「カンドリアム・エクイティーズ・L・バイオテクノロジー（Sクラス、円建て）」の2022年5月末現在の組入銘柄であり、今後も保有するとは限りません。また、個別銘柄を推奨するものではありません。

※上記は過去の実績であり、当ファンドの将来の運用成果および当該銘柄の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

ファンドのしくみ

- ファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。



※「カンドリアム・エクイティーズ・L・バイオテクノロジー (Sクラス、円建て)」の組入比率を原則として高位に保ちます。したがって、ファンドの実質的な主要投資対象は、創薬関連企業の株式となります。

ファンドのリスクおよび留意点①

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 価格変動リスク

● 株式市場リスク…株価の下落は、基準価額の下落要因です

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 信用リスク…債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です

ファンドが投資している有価証券や金融商品に債務不履行が発生あるいは懸念される場合に、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク…円高は基準価額の下落要因です

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

■ カントリーリスク…投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

■ 流動性リスク…市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

ファンドのリスクおよび留意点②

分配方針および分配金に関する留意事項

その他の留意点

■ファンド固有の留意点

●特定の業種・テーマへの集中投資に関する留意点

ファンドは、特定の業種・テーマに絞った銘柄選定を行いますので、市場全体の動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なることがあります。また、市場環境、金利および経済・法制度・金融面の諸情勢が、特定の業種・テーマに対して著しい影響を及ぼすことがあります。当該業種・テーマに属する銘柄は、これらの情勢等に対して同様の反応を示すことがあります。

■投資信託に関する留意点

●ファンドのお申込みに関しては、クーリング・オフ制度の適用はありません。

●ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。

これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

分配方針

- 年1回（原則として毎年11月10日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配金額を決定します。
- 分配対象額は、経費控除後の利子、配当収入と売買益（評価損益を含みます。）等の範囲内とします。
- 分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。

※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

ファンドは複利効果による信託財産の成長を優先するため、分配を極力抑制します。（基準価額水準、市況動向等によっては変更する場合があります。）

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

お申込みメモ（詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

| | |
|-------------|--|
| 購入・換金の申込受付日 | 原則として、申込不可日を除きいつでも購入・換金のお申込みができます。 |
| 購入単位 | お申込みの販売会社にお問い合わせください。 |
| 購入価額 | 購入申込受付日の翌営業日の基準価額 |
| 換金価額 | 換金申込受付日の翌営業日の基準価額 |
| 換金代金 | 原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。 |
| 申込不可日 | 以下のいずれかに当たる場合には、購入・換金のお申込みを受け付けません。 <ul style="list-style-type: none"> ●ルクセンブルクの銀行の休業日 ●ルクセンブルクの銀行の休業日の前営業日 ●ニューヨークの銀行の休業日 ●ニューヨークの取引所の休業日 |
| 決算および分配 | 年1回（毎年11月10日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配方針に基づき分配金額を決定します。 ※ 委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。 |
| 信託期間 | 2031年11月10日まで（2021年11月12日設定） |
| 繰上償還 | 当ファンドが主要投資対象とする投資信託証券が存続しないこととなったときは、繰上償還します。 また、以下の場合には、繰上償還をすることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ●繰上償還をすることが受益者のため有利であると認めるとき ●残存口数が30億口を下回ることとなったとき ●その他やむを得ない事情が発生したとき |
| 課税関係 | 課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」、未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA（ニーサ）」の適用対象です。なお、販売会社によっては、NISA、ジュニアNISAでの取扱い対象としない場合があります。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。 ※ 上記は作成基準日現在の情報をもとに記載しています。税法が改正された場合等には、変更される場合があります。 |

ファンドの費用等（詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

■ ファンドの費用

① 投資者が直接的に負担する費用

| | |
|---------|---|
| 購入時手数料 | 購入価額に <u>3.3%（税抜き3.0%）</u> を上限として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。 |
| 信託財産留保額 | ありません。 |

② 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

| | |
|------------------|---|
| 運用管理費用 （信託報酬） | ファンドの純資産総額に <u>年1.232%（税抜き1.12%）</u> の率を乗じた額 ※ 投資対象とする投資信託の信託報酬等を含めた場合、 <u>年1.932%（税抜き1.82%）程度*</u> となります。 * 投資対象とする投資信託の運用管理費用は、年間最低報酬額等が定められている場合があるため、純資産総額によっては、上記の料率を上回ることがあります。 |
| その他の費用・ 手数料 | 以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。 ● 監査法人等に支払われるファンドの監査費用 ● 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料 ● 資産を外国で保管する場合の費用等 ※ 上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。 |

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

■ 委託会社、その他の関係法人

| | |
|------|---|
| 委託会社 | 三井住友DSアセットマネジメント株式会社（ファンドの運用の指図等を行います。） |
| 受託会社 | 三井住友信託銀行株式会社（ファンドの財産の保管および管理等を行います。） |
| 販売会社 | 東洋証券株式会社（ファンドの募集・販売の取扱い等を行います。） |

重要な注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および目論見書補完書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等は販売会社にご請求ください。
- 当資料に評価機関等の評価が掲載されている場合、当該評価は過去一定期間の実績を分析したものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。
- 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

作成基準日：2022年5月末

三井住友DSアセットマネジメント株式会社 ご不明な点は下記にお問い合わせください。

コールセンター 0120-88-2976 受付時間：午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）

ホームページ <https://www.smd-am.co.jp>